

# 令和4年度第1回蕨市総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和4年10月21日（金） 午後3時～午後4時30分

2. 会 場 WEBによるリモート会議

## 3. 出席者（敬称略）

市 長：頼高 英雄

教育長：松本 隆男

委 員：飯野 朗子、萩原 敏行、小島 奈津子、尾方 香里

事務局：【市長部局】佐藤 慎也（理事）、阿部 泰洋（総務部長）、安治 直尚（保健センター所長）、佐藤 則之（政策企画室長）、島田 雅也（政策企画室主幹）、石黒 沙織（政策企画室主査）、市川 翔太（政策企画室主査）、高木 勇輔（政策企画室主事）

【教育部局】渡部 幸代（教育部長）、小山 晃弘（教育部次長学校教育課長事務取扱）、田中 昌継（教育総務課長）、佐藤 昌史（図書館長）、瀬口 正浩（教育総務課庶務係長）、松永 由美子（学校教育課指導係長）

## 4. 内 容

### 1 開会

【阿部総務部長】

ただいまから、令和4年度第1回蕨市総合教育会議を開会いたします。

### 2 あいさつ

【阿部部長】

はじめに、頼高市長からご挨拶をお願いいたします。

【頼高市長】

皆さんこんにちは。今日は、たいへんお忙しいなか、令和4年度第1回蕨市総合教育会議にご参加いただきありがとうございます。また、委員の皆様には日頃から蕨の教育行政にご尽力、ご協力いただいておりますことに市長として感謝申し上げます。

今回もWEB会議での実施となりますが、充実した会議となるようご協力をよろしくお願いいたします。

さて、皆様ご承知のとおり、コロナ禍が2年半以上続いております。蕨市ではこれまで6回に渡り独自の蕨市新型コロナ緊急対策に取り組んで参りました。最近では、コロナ禍に加え物価高騰の影響もあり、現在緊急対策の第7弾に取り組んでいるところでございます。例えば、ひとり親世帯に対する3回目となる独自給付金の支給や、食材費が高騰し学校給食にも影響が出ていることから、保護者の負担を増やすことなく安全で栄養のあるおいしい給食を継続するため、「学校給食費負担軽減事業」も2学期から行っております。そのほか、すべての家庭を対象とした「水道基本料金2か月分無料化」、また、1人5,000円の暮らし応援券「織りなすクーポン」支給事業についても、12月からの実施に向け現在準備を進めております。

新型コロナワクチン接種については、重症化リスクの高い高齢者の3回目接種は9割以上、4回目接種についても75%の方に接種を受けていただいております。また、先月26日からは、オミクロン株対応ワクチンの接種を開始したところでございます。

感染については、予断を許さない状況ではありますが、感染対策を講じながら様々な行事・日常活動を両立させようというところで、蕨市でも3年ぶりに市民音楽祭を有観客で開催しました。学校行事についても、制限はありますが、開催する努力をしているところでございます。

さて、本日の令和4年度第1回総合教育会議の議題は、「蕨市における外国語及び国際理解教育について」でございます。

外国語教育については、令和2年度からの小学校に続き、令和3年度から、中学校においても新学習指導要領が全面実施となり、外国語の授業を英語で行うことを基本とするようになるなど、外国語教育が大きく変化してきております。

そのような状況のなか、蕨市においては、令和2年4月に、各小・中学校全校にALTを1名ずつ配置し、令和3年度からは、中学校2年生及び3年生に英語4技能テストの一つであるGTICを公費負担で実施し、教員研修、GIGAスクール端末を活用した外国語学習を組み合わせ、生徒の外国語活用能力の一層の向上を図ってきたところでございます。

また、蕨市はアメリカのエルドラド郡と長年交流を続けており、ICTの環境を生かして、蕨市とエルドラド郡の青少年との交流の試みを行っております。

本日の会議は、限られた時間ですが、忌憚のないご意見をいただき、この会議が実り多いものとなるよう、また、今後も蕨の教育行政に対して、教育委員の皆様のお力添えをお願いして冒頭の挨拶とさせていただきます。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

### 3 議題

【阿部部長】

ありがとうございました。それでは、要領第3条の規定に基づきまして、会議の議長を頼高市長にお願いさせていただきます。

市長、よろしく願いいたします。

【頼高市長】

はじめに、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の規定により、総合教育会議は公開することとなっておりますが、本日の会議に傍聴の希望者はいらっしゃいますか。

【阿部部長】

本日は、傍聴希望者はおりません。

#### (1) 蕨市における外国語及び国際理解教育について

【頼高市長】

それでは、会議次第に基づきまして、会議を進行いたします。議題(1)の「蕨市における外国語及び国際理解教育について」です。事務局から説明をお願いします。

【小山教育部次長】

学校教育課から「蕨市における外国語及び国際理解教育」についてご説明させていただきます。

本日の流れですが、

1. ALTについて
2. GTECについて
3. ICTを活用した国際交流事業について

の3点についてご説明させていただきます。それでは、資料1をご覧ください。

1番目の「ALTについて」ご説明申し上げます。蕨市では、平成26年度からALTを市費で直接雇用しております。小学校において新学習指導要領が全面実施となった令和2年度には、小学校のALTを4名から7名に増員し、市内小・中学校全校に1名ずつALTを配置しております。近年ではALTを派遣委託している市町村が多いのですが、蕨市ではALTを直接雇用しており、優秀なALTを多く確保するよう努めております。次に、ALTの学校における主な役割といたしましては、

- ①「小・中学校における外国語、外国語活動における、教員の補助」

②「児童生徒への外国語学習の指導・支援」

③「外国語及び国際理解教育の推進」

の3点が挙げられます。蕨市では、ALTを直接雇用していることもあり、全体的に外国語の指導に関して能力や意欲が高いALTが多く在籍しております。月に1回開催しているALTの研修会におきましても、効果的な授業の在り方等についての研修を重ねており、日本人の教員とのチーム・ティーチングにおいて、指導案や教材の作成補助をはじめ、ALTが授業で効果的に教員の補助ができるよう努めております。ALTが授業に加わるだけで、子どもたちが英語で主体的にコミュニケーションを図ろうとする「目的や場面・状況」を設定しやすいという利点があります。実際にコミュニケーションができるような子どもたちを育てるためには、教室内で現実あるいは現実に近いコミュニケーションの場をつくり出す必要がありますが、蕨市では全校に1名ずつALTを配置できていることから、そういった環境が整えられていると考えられます。

また、この他にも「蕨市中学生スピーチコンテスト」など、英語の弁論や暗唱大会に出場する生徒の指導等にも、ALTが積極的に関わっております。中学校のALTにつきましても、出場生徒の指導を、また、小学校のALTにつきましても、大会当日の審査員として、審査及び指導講評を行っております。その成果もあり、令和元年度には、東中学校の生徒が「第71回高円宮杯全日本中学校英語弁論大会」において、全国2位という偉業を達成いたしました。また、今年度につきましても、先日9月28日（水）に開催された「第74回埼玉県中学校英語弁論大会」において、第二中学校の生徒が埼玉県で1位となり、「第74回高円宮杯全日本中学校英語弁論大会」に出場することができました。英語弁論大会において、ここ数年で、埼玉県でもトップレベルの生徒を輩出し、2回も全国大会に出場できているということは、日頃の先生方の外国語の指導や、それを支援するALTの指導の成果であると考えております。

またその他にも、ALTは国際理解教室等の掲示物の作成も行っております。掲示物を通じて、子どもたちが楽しみながら授業の内容を定着できるように、工夫を凝らして作成しております。また、これらの掲示物を通じて、季節ごとの英語圏の文化なども紹介したりしております。その他にも、日頃から子どもたちと一緒に清掃活動をしたり、今はコロナの影響でなかなか実施が難しくなっておりますが、子どもたちと一緒に給食を食べながら英語で話をしたりするなど、積極的に子どもたちとコミュニケーションを図っており、授業以外の場でも、子どもたちがALTと英語を話す場面を提供するよう努めております。

蕨市ではこれまで様々な国籍のALTを採用してきております。ALTは英語だけでなく、自国の文化や風習などについても、授業の中や、それ以外の場において積極的に情報発信しております。教育委員会といたしましては、今後も、

様々なバックグラウンドをもつALTとの交流を通して、子どもたちに様々な国のことを知る機会を提供し、国際理解教育を推進してまいりたいと考えております。ここで授業風景の動画を2つ流します。はじめに、レアロス先生による北小学校6年生の授業です。先生はフィリピン出身で、ALTとしては3年目となります。次は、第二中学校1年生の、ペラルタ先生による授業です。先生もフィリピン出身で、5年目となります。ALTについての説明は以上となります。

2番目の「GT E Cについて」ご説明申し上げます。まず、GT E Cの事業概要について、ご説明いたします。蕨市では令和3年度より中学校2・3年生において、GT E Cを導入しております。英語4技能テストであるGT E Cを実施するだけでなく、教員の事前研修で「目指す子どもたち」の目線合わせを行い、4技能テストにより「子どもたち」を多角的に見たり、教員が自らの指導を振り返ったりする機会を作り、教員の事後研修で、見えてきた課題に対しての有効な指導を市内で共有することで、授業の中で、子どもたちが多く成功体験を積み上げられる指導を目指し、子どもたちの英語力向上を目指す事業となっております。

GT E Cを導入した経緯ですが、まず1点目といたしましては、国の第3期教育振興基本計画で、「グローバルに活躍する人材の育成」が目標として掲げられており、その中で示されている指標として、英語力について、「中学校卒業段階でCEFR（セファール）のA1レベル相当以上の中学生の割合を5割以上にする」ことが示されております。CEFR（セファール）のA1レベルというのは、英検3級レベル相当ということになりますが、この、国が示している子どもたちに身に付けさせる英語力のレベルを正確に把握する必要があるということが挙げられます。

また2点目といたしまして、令和元年度の全国学力・学習状況調査において、中学校3年生を対象に、初めて「話す」調査が実施されたことが挙げられます。「話す」調査につきましては、次回は来年、令和5年度に予定されておりますが、このことから、「話す」技能が、重要視されてきていることは明らかであり、「話すこと」も含めた4技能の育成が必須となってきていることが挙げられます。これらの事を踏まえ、蕨市では

- ・ 中学校英語の成果の可視化
- ・ 事後研修会での「良き指導事例」の共有
- ・ 先生方、子どもたちへの良質なフィードバック
- ・ 市内の先生方に向けた研修会の実施
- ・ GIGA スクール端末で活用できる外国語教材の提供、AI 採点・ライティング指導用の動画コンテンツ
- ・ 一人一人の結果に応じた復習教材の提供

等をとおして、「話す・書く」を含めた英語 4 技能測定と PDCA サイクルの構築により子どもたちの英語力育成を推進してまいりたいと考えております。昨年度実際に行った G T E C のスピーキングテストでは、1 人 1 台のタブレット端末の環境で、短時間で学年全員が学校内の教室において、クラス単位でのスピーキングの「一斉受験」が可能となりました。また、子どもたちには、付属の冊子も事前に 1 人 1 冊ずつ配付されており、受検前に取り組んだりできるほか、G T E C 受検後には、それぞれの結果帳票に、一人一人の結果に応じた難易度別の推奨ページが提示されるため、テストをそのままにせず、復習までつなげることが可能となっております。また、冊子の 2 次元バーコードから、WEB コンテンツにアクセスが可能となっております、

- ・リーディング、リスニング学習の音源
- ・スピーキングの学習コンテンツ
- ・ライティングの学習コンテンツ

などを、各自の G I G A 端末からアクセスして学習可能となっております。端末でそれぞれが「動画コンテンツ」を見ながら学習することができるため、生徒の自立的な学習も可能となっております。

また、ライティング教材につきましては、「A I 添削」の機能があり、生徒一人一人がライティングに取り組む時間が増えることで、英語力向上につなげることができると考えております。ライティングやスピーキング等の指導は、これまでのように一人一人を見ていく方法だと、時間がかかるため、どうしても回数を多く確保することが難しいのですが、1 人 1 台の G I G A 端末と組み合わせることで、各自で何度でも取り組めるため、生徒の英語力向上につなげることができるものと考えております。

次に「目線合わせ」の教員研修会についてです。この研修会を通して、先生方に

- ・中学校新教育課程における指導の変化・指導の姿
- ・国が求める英語力の姿

などについてお伝えするとともに、タブレットを使用して実際のスピーキングテストを体験していただきました。また、今年度の事前研修では、小・中連携を意識し、小学校の先生方も交えてタブレットを使用したスピーキングテストの体験研修を行いました。小学校の先生方にも、今現在、ご自分が指導されている子どもたちの、数年後の目標とするゴールの姿を共有いただくことで、これからの自校での指導に役立てていただけるものになったのではないかと考えております。

続きまして、今年 3 月に実施した、事後の教員研修の内容についてご説明します。昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、オンラインで実施

いたしました。この事後研修では、主に

- GTECの結果に関するベネッセコーポレーションからの情報提供
- グループワーク

を行いました。事後研修では、各校の先生方が、自校の子どもたちの詳細なGTECのデータを基に、教員同士で、

- 自校の子どもたちの「聞く力」「読む力」「話す力」「書く力」の4技能のスコアとグレードの分析
- 「成果が出ている技能」について、効果的だと思う指導方法
- 「課題となる技能」について改善すべき点

等について、「GTEC 結果分析シート」をもとに指導改善のための協議を行いました。各校の先生方に大変熱心に協議いただき、その後の各校での指導の改善に役立つ、非常に有意義な研修会となりました。

令和3年度の蕨市におけるGTECの結果をご報告します。3年生は、国が目指すCEFR（セファール）A1レベルに達した生徒の割合が全体の57.8%、2年生は、45.5%でした。3年生につきましては、国が目標としている50%を大きく上回りました。2年生につきましても、あと4.5%というところまで迫っており、蕨市の子どもたちが頑張って英語力を身に付けているということとともに、先生方についても大変頑張って指導いただいているということが分かりました。今後もGTECを活用してPDCAサイクルを回し、蕨市の子どもたちの英語力向上を図ってまいりたいと考えております。2番目のGTECについては以上となります。

3番目の「ICTを活用した国際交流事業について」ご説明申し上げます。蕨市では、昨年、令和3年度に、蕨エルドラド姉妹都市協力会からの紹介を受け、市内の中学校2、3年生を対象に、蕨市の姉妹都市の一つである、アメリカ、エルドラド郡の中学生、高校生たちとの交流事業を実施いたしました。最終的には新型コロナウイルスの感染状況により、実施できなかったのですが、当初、第一中学校には、エルドラドからの使節団の訪問が予定されていたため、第一中学校以外の第二中学校及び東中学校の生徒が、エルドラドの中・高校生とオンラインを通して交流いたしました。昨年度は、第二中学校の2年生が、エルドラドのゴールドトレイルスクールの生徒たちと、また、東中学校の3年生がオークリッジハイスクールの生徒たちと実際に本交流事業を実施いたしました。当初はオンラインによる同時双方向の交流を考えておりましたが、蕨とエルドラドの間には14時間の時差があり、同時双方向での交流が難しいことから、エルドラドの先生から Flipgrid（フリップグリッド ※現在は「Flip」フリップに改称）という動画アプリを使っただけの交流を提案いただき、実施いたしました。生徒たちは、自

分たちの好きな食べ物や教科、将来の夢などについて、英語で紹介していました。また、エルドラドのオークリッジハイスクールの生徒たちは、日本語を勉強していることもあり、あちらの先生からの提案で、エルドラドの生徒は日本語から英語の順で自己紹介をし、蕨の生徒は、英語から日本語の順で自己紹介を行うなど、お互いの言いたいことが、より伝わるように工夫しながら交流を深めていました。普段の授業においても、各校に配置されているALTと英語で交流する機会はある蕨の生徒たちですが、自分たちと同じくらいの現地の生徒たちと実際に英語を使って交流することで、より相手意識をもち、主体的に取り組むことができました。

今年度につきましては、昨年度実施できなかった第一中学校も含めて、市内すべての中学校の生徒を対象に、本交流事業を実施する予定となっております。今年度につきましては、第一中学校及び東中学校の生徒が、オークリッジハイスクールの生徒たちと動画を通して交流する予定となっております。また、第二中学校の生徒たちは、ゴールドトレイルスクールの生徒たちと交流する予定となっております。ちなみに、ゴールドトレイルスクールのホームページには、今から約150年前の1869年に、日本からカリフォルニアにやってきた北米最初の日本移民団が、エルドラド郡ゴールドヒルでアメリカ本土初の日本人入植地「若松コロニー」を形成したことなど、エルドラドと日本とのつながりについても掲載されております。ゴールドトレイルスクールの全景についてはスクールのホームページに掲載されており、YouTubeで見ることができるようになっております。蕨市とは違い、近くに住宅地のようなものもなく、大変広大な敷地の学校であることがお分かりになると思います。蕨市の子どもたちにとっても、自分たちが交流している相手の学校の様子を、こういった形で見ることであれば、自分たちとの「違い」を理解する、という国際理解教育の第一歩につながるものと考えております。

今年度も、エルドラドの各校と蕨の子どもたちが動画をとおして交流していくわけですが、その際に、ぜひこういった交流先の学校についても紹介してもらえるように、中学校の先生方にも動画等の情報提供をしていきたいと考えております。

また、今年3月には、現在、JICAの現職教員特別参加制度で、青年海外協力隊として参加している中央小学校の教員が教えているルワンダの子どもたちと、中央小学校の子どもたちが、オンラインでの交流を行いました。配置しているALTも、交流の際に子どもたちの支援を行いました。子どもたちにとっても、ルワンダの子どもたちと交流するという、普段はなかなか経験できない、大変貴重な機会になったことと思います。こちら、ICTと英語を効果的に組み合わせた、外国語及び、国際交流の取組となりました。ICTを活用した国際交流事業に



つきましては、以上となります。

最後になりますが、私たちの周りのグローバル化は日々進展しております。例えば、「外国に由来する人口」は2065年には総人口の12.2%、年齢階層別にみると、20-44歳では、総人口の17.9%になると見込まれております。また、現代はよく、

- ・変化のスピードが速い「変動性」
- ・予測できない「不確実性」
- ・多くの要因が絡み合っている「複雑性」
- ・因果関係が不明瞭な「曖昧性」

を表す英語の頭文字をとって、VUCA（ブーカ）の時代と呼ばれるようになりました。新型コロナウイルスの感染拡大等に代表されるように、先行きが不透明で、将来の予測が困難な時代となっております。

この他にも、社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」に向け、社会全体のデジタル化・オンライン化をはじめ、様々な取組が進んできております。

こちらは、現在の学習指導要領の前文の内容の一部となります。

「これからの学校には、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」

これを、外国語教育、国際理解教育で当てはめて考えると、子どもたちが、自分の母語とは違う言語との「出会い」を通じて「他者」と出会い、その「他者」との交わりの中で、「自分たちのよさや可能性」を認識するとともに、「あらゆる他者を価値ある存在として尊重」し、そして、外の世界の「多様な人々と協働」しながら、様々な社会的変化を乗り越え、「豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手」となることができるようにすること、という風に考えることができるかと思えます。

本日は、蕨市における、これまでの主な外国語及び国際理解教育における施策をご紹介いたしました。グローバル化の進展や、Society5.0に向けた、これまでにない、先行きが不透明で、将来の予測が困難な変化の激しい時代にあっても、蕨の子どもたちが、外国語教育、国際理解教育を通して、豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、今後も学校現場と連携しながら、外国語及び国際理解教育を推進してまいりたいと考えております。

ご清聴ありがとうございました。

【頼高市長】

学校教育課より3点ご説明させていただきました。ただいまの説明について、

皆さんよりご意見、ご質問がありましたらお願いします。

【飯野委員】

ALT を直接雇用することによって、続けて指導していただけるということは大変良いことだと思います。技術・経験の蓄積はとても大切なことです。同じ先生が長く続けることによって、去年はこうだったから今年はこうしてみようなどの経験を積み重ねるということは、ALT にとっても子どもたちにとっても意味のあることと考えます。また、ALT 同士の横のつながりによる情報共有もとても良いことだと思います。

また、姉妹都市エルドラド郡との交流についてもとても有意義であると思います。昔は、試験に合格することを目的とした英語を勉強していたので、社会人になったら使わない場合がほとんどでした。しかし、外国語を学ぶ入り口として、いろいろな人とコミュニケーションを取りたい、相手のことを知りたいという動機がないと続かないと思います。そういう意味では、ただ端末を使った学習ができますということだけでなく、現実に外国の方とコミュニケーションを取ることができることで学習へのモチベーションにつながるので、たくさんの方と交流できるチャンスを作っていただきたいです。時差の関係もあると思いますが、できれば生のコミュニケーションが取れるとずっと良いと思うので、ALT を通じて相手を探すことも必要なのではと感じました。

【萩原委員】

ALT に関しての一般論的な課題として、雇用条件、日本人教員との関係が挙げられますが、蕨市は直接雇用の形をとっているということで、これは非常に効果的であると考えます。今後も継続していただきたいと思います。また、コロナ禍において人材交流が難しい中ではありますが、日本人教員との関係性作りを力を入れていくことが重要であると思います。今までも力を入れていることは思いますが、より一層力を入れて、教育委員会としてもバックアップしていくことが必要になるのではという感想を持ちました。

次に、ICT による国際交流について、姉妹都市エルドラド郡と時差が大きいということですが、調べたところ、埼玉県が時差のないオーストラリアのクィーンズランド州との関係を作っているとのことで、蕨市としても時差のない地域との交流・関係性作りを行うことができれば良いのではないかと思います。子ども同士だけでなく、教員養成系の外国の大学の学生と蕨の子どもたちとの交流等ができれば面白いのではないかと考えます。私の勤める大学においてもアメリカの教員養成系大学とコミュニケーションをとっており、大変勉強になることが多く、各国の子どもたちとの関係性を作っているところであります。蕨でもこ

のような取組が出来ればいいのではないかという感想を持ちました。

【頼高市長】

今のお話の中で、教育委員会から現状・課題等について説明をお願いします。

【小山次長】

授業を行っていく上で、ALT とはプランを話し合っ進めておりますが、中学校 3 名、小学校 7 名の ALT がいる中で、日本の教師との時間の確保については、しっかりと考えていかないと難しい部分もあるかと思ひます。ただし、経験がある ALT の先生も多いので、フォローし合いながら行っているところでございます。

【松永学校教育課指導係長】

補足になりますが、通常の派遣会社の ALT ですと勤務時間が比較的短く、授業が終わるとすぐに帰ってしまうという市も多い中で、蕨市は直接雇用で 7.5 時間、普通の教員と同じく 16 時 50 分までの勤務としているため、他市よりも打ち合わせの時間が取りやすくなっていると思ひます。また、ALT 側も小学校でどのように教え、中学校でどのように活動しているのかを知ることも重要だと考えており、今年度も毎月、全校 10 名の ALT を集めて効果的なチーム・ティーチング等に係る研修を行い、ALT 同士のつながり、日本人教員との関係性づくりを図っているところでございます。

【頼高市長】

ありがとうございます。では、引き続きご意見等はございますか。

【小島委員】

国際交流事業について、蕨市とエルドラド郡が姉妹都市の関係を結んだのは 40 年ほど前、他市に先駆けて始まったと記憶しております。当時、私の祖父が英語の教師をしており、姉妹都市交流の立ち上げに関わっておりました。また、当時 10 歳の弟に 1 年間エルドラドに留学しないかとの話がありましたが、小さな子どもが海外に気軽に行けるような時代でもなく、話は頓挫してしまいました。

このように長く国際交流が続いてきた中で、例えば、春休み等の期間を利用して短期留学制度等の形で蕨市が支援することができれば、生きた国際交流になるのではないかと思います。市として援助してもらえれば、もっと豊かな教育になるのではないかと思います。

もう 1 点は直接雇用の ALT についてですが、生徒からは先生と話すのが楽しいという声を聞いております。最初は恥ずかしかったけれど、先生がとてもフレンドリーで距離が近くなったという声を聞き、子どもたちにはふれあいが大切であると思いました。ここから質問ですが、良い人材を確保しようという取組は理解しましたが、ALT の先生は毎年何名程度の応募があり、倍率はどの程度なのか伺いたいです。

#### 【小山次長】

ALT は例年 20 名程度の応募があり、書類審査も行います。倍率としては 2 倍強で推移していると思います。

国際交流に関しては、秘書広報課とも相談しながら進めていければと考えております。

#### 【頼高市長】

蕨市では、短期留学の支援については現状行っておりませんが、国際青少年キャンプを各国ローテーションで開催しております。中学生・高校生がドイツまたはアメリカに行き、ホームステイをさせていただいたり、日本に海外の青少年が来たり、参加した青少年にとってはとても良い経験になっているのではと思います。ドイツの青少年も英語ができるので、各国英語でコミュニケーションが取れるということで非常に良い刺激になっていると感じます。

コロナ禍でこの 2 年は開催できませんでしたが、引き続き交流事業を行っていきたいと考えております。

では、引き続きご意見等はございますか。

#### 【尾方委員】

エルドラド郡について、私の子どもが 10 年ほど前に国際交流事業に参加したことがございます。初めての海外でしたが、ホームステイをさせていただき、他国の文化を学ぶという貴重な経験をさせていただきました。たくさん子どもたちにチャンスがあるということはとても良いことだと思いますので、コロナ禍で難しいとは思いますが、こういった事業が再開して短期留学等もできるようになると良いと思います。

また、先日、北小学校の学校訪問をさせていただき、ALT の授業を拝見しました。子どもたちも非常ににぎやかに、大きな声で英語を話しており感心しました。蕨市の教員も年齢層が下がってきているなかで、英語へのハードルも低くなっており、今までは ALT 主体で日本人教員がサポートのみであったものが、日本人教員と外国人 ALT が一緒に授業を進めるという形をとることで、生のコミ

コミュニケーションを見せるということが、子どもたちにとって良いことだと思います。GTECの結果を見ても、生徒たちの能力が年々上がってきているように思います。今までは、自分で勉強している子どもとそうでない子どもで差があったと思いますが、学校で全児童・生徒の基礎知識としての英語の底上げが行われており、能力を伸ばしていく取組は素晴らしいと思います。最近では、教室の中に、様々な国籍の子どもがおり、英語を学ぶということは、共通言語を学ぶことになり、子どもたちの国際理解のサポートになるのではと思います。

身近なところで、クラスの中でも国際理解がもっと広がっていくと、今後生活していく上で、共生は欠かせないことだと思いますので、子どもたちにもそういった気持ちを育てていただきたいと思います。

#### 【松本教育長】

ありがとうございました。教育委員のみなさまの感想・意見を聞き、蕨でこんなこともできるのではと気づくことができました。蕨市としては、アメリカとドイツと国際交流を行っていること自体が、とても良いことだと考えております。私も第一中学校の教頭をしていた時に、ドイツのリンデンに引率で行きました。その時に、子どもたちは積極的にホームステイ先の方やドイツの青少年と関わっており、感心したことを覚えております。こういった経験が出来ることはとても有意義であると思いますので、これからも引き続き交流を続けていけるようにと考えております。

また、ALTを1校1名配置に出来たことも蕨市の英語教育にとって効果のあることと思っております。GTECについても、他市ではなかなかやらないことを先進的に取り入れており、徐々にではありますが成果を上げてきておりますので、続けていきたいと思っております。

蕨の子どもたちが、どこに行っても自分の思いを伝えられるような力をつけていける教育をしていきたいと考えております。

#### 【頼高市長】

それでは、私からも感想を含めて発言させていただきます。

まず1点目、ALTの状況につきまして委員の皆様からも意見をお聞きしましたが、やはり1校に1名いるということはとても重要だと感じております。今までは1名で2~3校担当していましたが、授業以外の生徒との交流や先生同士での交流も含め非常に重要であると感じております。直接雇用をすることにより、良い先生に蕨に来ていただいていると実感しているところです。

2点目は、英語は長年勉強するものですが、日常会話等でなかなか生かせないという点です。現代の国際化社会の中で臆さずコミュニケーションが取れるよ

うに、普段から英語に触れることがとても重要になると思います。日常的な会話が出来ることが財産になると思いますので、引き続き取り組んで参りたいと考えています。

最後に GTEC について、徐々に成果が上がってきていることと思います。自分で勉強しようと思えば、教材も提供されておりますので、こういったものを義務教育の場で提供できるということに意味があるのではないかと考えております。今後の教育の場で大いに活用していただければと思います。

## (2) その他について

【頼高市長】

次に議題の(2) その他について、事務局から何かありますか。

【佐藤政策企画室長】

3点ほど報告したいと思います。

まず、①点目は、「令和4年度児童・生徒の活躍について」を担当より報告したいと思います。

【小山次長】

児童・生徒の活躍について報告いたします。その他資料1をご覧ください。

第一中学校の佐藤さんが学校総合体育大会県大会陸上競技共通男子走幅跳で優勝し、全国大会に出場しました。陸上競技では、そのほかにも第一中学校、第二中学校から100m、200m、1500mや400mリレー等で県大会出場の成績をおさめました。また、水泳競技に関して、第一中学校から多くの種目で生徒が県大会出場を勝ち取りました。そのほか、県大会出場を果たしたのは、第二中学校野球部、サッカー部、男子ソフトテニス部、男女卓球部、男女柔道部、個人で硬式テニスです。中でも、第二中学校2年生の斉藤さんが柔道女子個人40kg級で3位入賞となりました。

今年度の新人体育大会に関しましては、各学校とも団体および個人で優秀な成績をおさめております。県大会は11月初めごろの日程となっております。県大会での蕨市の生徒のみなさんの活躍を期待しております。なお、水泳に関しましては、県大会が先に行われておりますので、そちらでも各選手健闘しております。

さらに、10月17日に行われました蕨戸田二市駅伝の結果についてですが、男子の部で第一中学校が全体で2位に入りました。女子の部では第二中学校が全体で1位となりました。この2校が県大会への出場権を勝ち取りました。県大会での活躍を期待しております。県駅伝は11月5日に実施の予定です。

なお、文化系の部活動においても県のコンクールで受賞するなどの活躍が見られました。

また、資料にはございませんが、第74回埼玉県中学校英語弁論大会において第二中学校の3年生木村さんが第1位となり、第74回高円宮杯全日本中学校英語弁論大会に出場することができました。

生徒の活躍に関しては以上です。

#### 【頼高市長】

先日、蕨市にあります武南高校のダンス部のみなさんが、全日本高等学校チームダンス選手権大会において、全国1位になったとのことで、報告に来てくれました。蕨市にある学校が頑張っているということ、追加でご報告いたします。

続いてお願いします。

#### 【佐藤室長】

続いて、2点目「電子図書館の実施状況について」担当よりご報告いたします。

#### 【佐藤図書館長】

電子図書館の実施についてご報告いたします。その他資料2をご覧ください。

蕨電子図書館はインターネットで24時間いつでも電子書籍の貸出・返却ができるサービスで、今年の8月1日から開始しております。利用できる方は蕨市にお住まいの方、蕨市に在学・在勤の方とし、実際の利用には図書館の利用券が必要です。

また、このほかに市内公立小・中学校の児童生徒全員にIDの発行を進めており、学校での朝読書や授業に活用していただきたいと考えております。こちらにつきましては10月中にIDを作成し、11月中には学校で利用していただきたいと考えております。電子図書館の利用方法や貸出・予約については資料に記載のとおりとなっております。

10月12日現在の状況ですが、電子書籍の内訳が一般書411冊、児童書114冊、児童読み放題パック300冊、青空文庫500冊、DL-マガジン151誌(2,070冊)の合計3,395冊を提供しております。なお、一般書と児童書は同時閲覧者数が1人のみ、児童読み放題パックと青空文庫は同時閲覧者数が無制限、DL-マガジンは同時閲覧者数が20人までとなっております。

次に、実利用者数は547人、延べ利用者数は2,648人、全利用者の平均利用回数は4.8回となっております。続きまして閲覧冊数ですが、実閲覧冊数は655冊、延べ閲覧冊数は3,856冊、資料別の閲覧回数ですと、1位は151誌の雑誌が読めるDLマガジンで443回、2位はイギリス人女性のイザ

ベラバードが1878年に日本を旅行した際の旅行記であります「日本奥地紀行」で99回、3位は向田邦子による戦前戦後の日常を綴ったエッセイである「無名仮人名簿」で55回、4位はアンデルセンによる童話の電子紙芝居版であります「みにくいあひるのこ」で47回、5位は東日本大震災で迷子になったミニチュアダックスフンドが奇跡的に飼い主と再会できた実話を題材にした児童向け文庫「ロックとマック」で36回となっております。

報告については以上です。

#### 【佐藤室長】

最後に、「新型コロナワクチン接種について」担当よりご報告いたします。

#### 【安治保健センター所長】

新型コロナウイルスワクチンの接種について報告いたします。その他資料3をご覧ください。

現在、蕨市におきましては、2回目のワクチン接種を完了した12歳以上の市民を対象として、オミクロン株対応ワクチンによる追加接種を進めております。

オミクロン株対応ワクチンは、従来株に由来する成分と、オミクロン株に由来する成分の両方を含む「2価ワクチン」と呼ばれるワクチンで、従来株に対応した1価ワクチンと比較して、オミクロン株に対する重症化予防・感染予防・発症予防のそれぞれの効果が高いことが期待されています。

現在、オミクロン株の亜系統の一つであるBA.1に由来した成分を含むBA.1対応2価ワクチンを使用しておりますが、個別接種医療機関では来週月曜日から、市内4か所の集団接種会場では11月から、それぞれBA.4/5対応ワクチンを使用することとしております。なお、オミクロン株対応ワクチンは、1回だけ接種をするもので、2種類の2価ワクチンはいずれも従来型ワクチンを上回る効果が期待されますので、いずれか早く打てるワクチンで1回接種することを市のホームページ等で呼びかけております。

次に、5歳から11歳までの方を対象とする3回目接種についてであります。市内の医療機関におきましては、先月20日から接種を始めていただいており、接種券につきましては、1、2回目の初回接種が終了して5か月を経過した方にお送りしております。

なお、12歳以上の方の追加接種に関しましては、本日接種間隔が3か月に短縮となりましたので、今後は3か月を経過した方に接種券をお送りすることとなります。

国の説明では、オミクロン株の流行下において、小児の感染者数が増加し、新規感染者全体のうち、10代未満の小児が約2割を占めたことや、小児であっ



でも中等症や重症例が確認されていることから、特に基礎疾患を有する等、重症化するリスクが高い小児には接種の機会を提供することが望ましいとされています。

次に、生後6か月から4歳までの乳幼児を対象とする初回接種の開始について説明いたします。11月7日から市内の医療機関で接種開始を予定しており、今月の終わりから対象となる方に接種券をお送りいたします。

使用するワクチンは、ファイザー社製の従来株対応ワクチンで、初回接種として3回の接種を行うこととされており、1回目の接種をしてから原則20日の間隔をおいて2回目の接種を行い、その後55日以上の間隔をおいて3回目を接種することとされているため、1月15日までに1回目の接種を行わないと特例臨時接種期間である令和5年3月31日までに接種が完了しないこととなるため、その旨も含めて広報に努めてまいりたいと考えております。

最後に、年代別の接種状況について、ご説明いたします。いずれも今月16日現在の2回目接種済みと3回目接種済みの割合となります。3回目接種済みのうち、5歳から11歳については、先月から接種が始まったところなので参考程度となりますが、それ以外の年代は最初の接種券送付から半年以上経過している状況となります。

6月末に3回目未接種の方に対する個別勧奨通知を発送するなど、様々な取組を進めた結果、各年代の接種率は少しずつ上がってまいりましたが、特に若年層については全国の接種状況と同様に低い割合となっております。

先日、国が1、2回目接種に使用する従来型ワクチンの供給を年内で終了することを発表しましたので、来月には、未接種の方向けに従来型ワクチンの供給終了をお知らせするとともに、接種を検討されている方にはお早めに接種をご検討いただきたい旨の通知をお送りする予定でございます。

報告は以上となります。

【頼高市長】

そのほか、事務局からは何かありますか。

【佐藤室長】

次回の会議テーマと日程の提案でございますが、「令和5年度教育事業の概要(案)」を主な議題として、2月頃に開催することを提案させていただきますが、いかがでしょうか。

【頼高市長】

ただいま、事務局から次回会議の開催時期、議題等について提案がありました

が、いかがでしょうか。

【一同】

異議なし。

【頼高市長】

それでは、次回の開催については、「令和5年度教育事業の概要（案）」を主な議題として、2月に開催することといたします。

そのほか、事務局からは何かありますか。

【佐藤室長】

最後に、本日の会議録につきましては、事務局で作成した後、皆さまにご確認をさせていただき、要領第6条の規定により公開をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

#### 4 閉会

【頼高市長】

それでは、以上で本日の議事を終了いたします。ありがとうございました。